



10月の宮古島

会員

市川 尚<48期>

私は、この6月東京弁護士会に復帰させていただくまでの4年間、沖縄県宮古島で弁護士業務に従事してきた。

かの地での仕事については、これまでも、日弁連(自由と正義2004年9月号)、九弁連、関弁連、あるいは、沖縄弁護士会、東京弁護士会(LIBRA2003年10月号)、さらには東弁時代の所属会派等々、ご縁のあるほとんどすべての機関の会誌等に紹介させていただき幸運を得た。今回、改めてLIBRAから「宮古島のことについて何か書いてくれ」とのご依頼を受けたが、おそらくこれが最後になるだろう。そこで、私がいちばん言いたいこと、10月の宮古島がいかに素晴らしいか——ということだけちょっとご紹介して責めをふさぎたい。

沖縄は、夏までは修学旅行の団体でにぎわうが、夏休みになると家族連れのお客が一気に押し寄せる。9月に入ると、なぜか、カップルが目立ちはじめ、冬になると東北地方などからの農閑期を利用しての中高年の団体旅行が多くなる。

しかし、10月の沖縄はエア・ポケットのように、どこも落ち着きを取り戻す。もちろん、宮古島もだ。

だれもないビーチはあくまでも白くかがやき、リーフ内に押し寄せる波の音だけ。しかし燦々と降り注ぐ陽光はまさに夏そのものであり、「まだ泳げる」というのではなく「泳がずにいられない」ほど。島の景色はいまだすべて原色…とくに海は毒々しい青さだ。

8月や9月にはためらわれる炎天下の島内観光も、この季節ならそんなに苦にならない。

リゾート・ホテルからもひところの喧騒は遠のく。植栽された椰子の木々が、海風を受けてサワサワ鳴っているのを聞いているとついつい眠くなる。グラスの中の氷はいつの間にか溶けてしまう。…このシーズン、台風があまり来ないのもいい。



私は、宮古島にいる間、200名以上の観光客のご接待をしたが、「宮古島に行くとしたらいつがいいですか」と聞かれたら、必ず「10月です!」と答えたものである。

…10月となれば、さすがに夕刻は、暑さもいくらかやわらぎ、その分、食がすすむせいか、島の食材を利用した郷土料理もなおいっそうおいしく感じられる。鮮烈な色彩の亜熱帯の魚もなかなかだが、ゴーヤ、ベニイモ、シマニンジン、シマラッキョウ、パパイヤ、ヘチマさらにはモズク、海ブドウなどを使ったメニューは実に豊富である。お酒が好きな人は、島唄ライブを聞きながらいつまでも泡盛を傾けているがよかろう。

なによりツアーの料金が、この季節、ぐっと安くなるのも魅力的だ。

私にとって、宮古島は第二のふるさとだ。東京に帰ったこれからも、こんな風にして宮古島の宣伝を続けていきたいと思っている。と同時に、自分自身、いつかまた宮古島に帰りたい、という気持ちを捨てきれない。それほど宮古島の10月はすばらしい。